



# ネイチャーなら

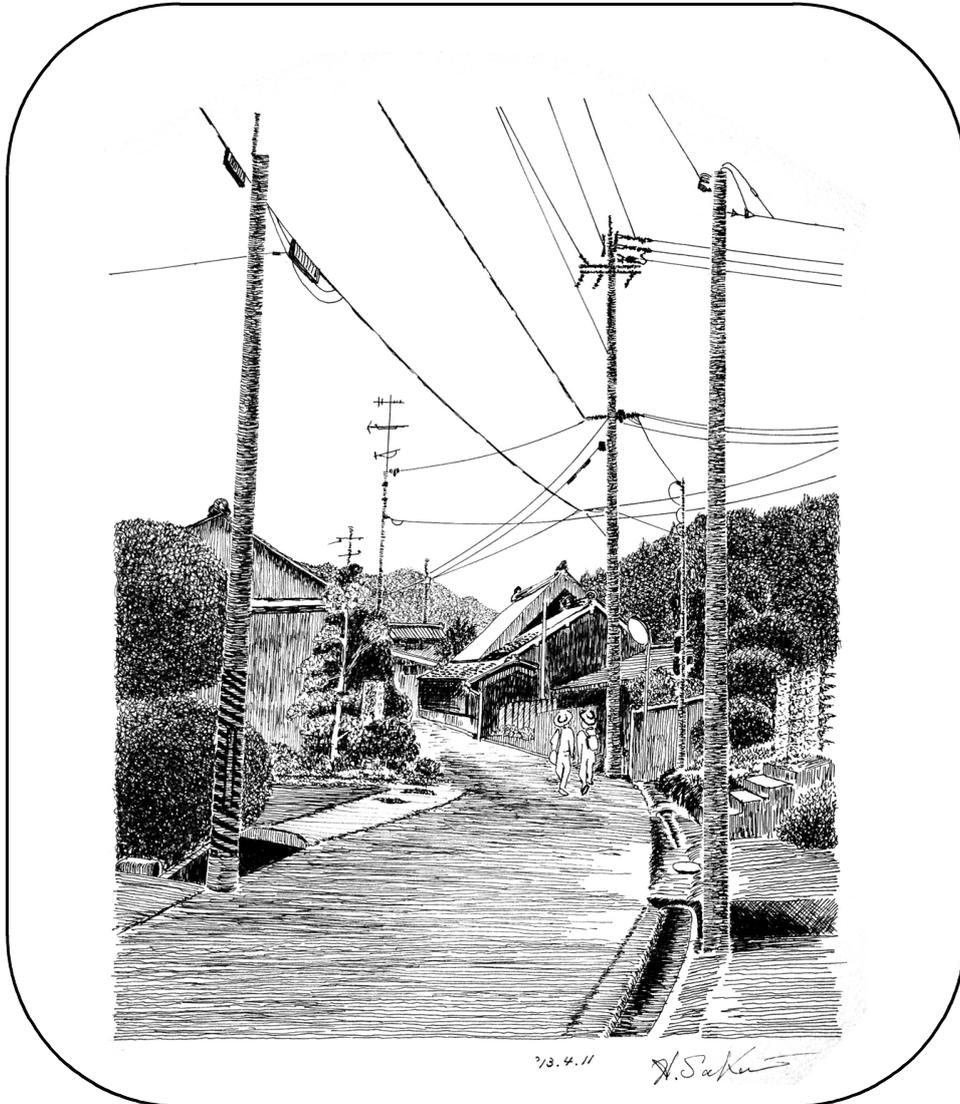
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年5月1日

5月号・第136号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



通常総会開催！

ジャコウアゲハ誕生！

仲間入りしました！

ならやま池にカルガモ飛来

## Contents

\$\$\$\$\$

仲間入りしました①	①	自然俳句	⑪
仲間入りしました②	②	癒しの散歩道&ならやま茶論	⑫
仲間入りしました③	③	青垣春秋	⑬
Monthly Repo.ならやま	④	Galleryならやま	⑭
里山の今	⑤⑥	蕎麦よもやま咄	⑮
3月例会報告	⑦	ならやま景観整備	⑯
4月例会報告&アースデー報告	⑧	情報BOX&奈良学クイズ	⑰
自然教室チームだより	⑨	行事案内(例会案内&予告)	⑱
やさしい昆虫講座⑩	⑩	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記	⑲

## 仲間入りしました①



## 新しい一歩

高橋やすよ

朝8時、自転車で家を出る。唐招提寺の正門前を横切り、秋篠川に沿って北上。近鉄線を超えたところで右折。朱雀門、大極殿を見ながら平城宮跡を突っ切る。北に方向を変え、前方後円墳の間を縫って進む。そして24号線バイパスの下をくぐり抜けると、そこには21世紀の桃源郷とでも呼んだらいいのか、思いも掛けない風景が展開しており、一瞬で魅せられてしまう。

自然大学校にいた時には、自然はあくまで観察の対象でした。卒業後も、いずれかの観察会に入り少しずつ自然を知ることができたかと思っていました。しかし教育実習で、この二月、この場所を知ってしまったのです。もうこれは参加するしかない。自分の考えていた生活とは随分違ってくると思いますが、今ならまだ新しいことに挑戦できるはず。今日もつるはしを持って、はじめてタケノコ掘りをしました。これからどんなことが出来るのか、とても楽しみです。

## 皆様 よろしくお申し上げます

田矢 恵造

入会の切っ掛けは65歳で現役を卒業後趣味もなく老いを養っておりましたが今年で70歳になりますので、一念発起してボランティア活動を始めようと「ボランティアセンター」を訪問しアドバイスをいただきました。逆に何に興味があるか聞かれ、森林や竹林・自然の整備をやりたいと返答すると即座にちょうど良い所がありますと藤田会長に紹介していただき、入会することが出来ました。

事務職育ちで得意な分野が無く、何が出来るか分かりませんが色々な事に挑戦したいと思しますので皆様のご指導の程お願いいたします。入会して1ヶ月程ですが4つの「モットー」の元、予約も断りもせず気楽に参加でき、中身の濃い活動に大変喜んでおり助言を願望しております。

最近植木に興味を持ち月1回3時間程ですが臯月の会で指導を受けております。

## よろしくお申し上げます 辻本愛子

夫がこの会に入り「疲れた」と言いながらも毎回楽しそうに帰って来るのを見て、一体どんな活動をしているのだろうと興味を持ちました。

話を聞くと、里山整備の活動をしながら奈良の自然を満喫している様子。自然の草木、動物が好きな私はちょっぴり夫が羨ましく感じました。それに毎回持って帰って来る無農薬野菜にも心引かれました。

木曜日は外国の方に日本語を教えるボランティアと重なりなかなか参加出来ませんが、歴史文化教室とか自然観察会などもあると聞き、意を決して入会させて頂きました。

他にはホームヘルパーに従事し、太極拳や大正琴を習い、英会話教室にも通い日々忙しくしておりますが、古都奈良に住み、歴史、文化や自然に親しむ事の出来る環境に幸せを感じております。

奈良・人と自然の会に入会させて頂き更に色々な事を勉強させて頂ければと思っておりますので、夫共々宜しくお申し上げ致します。

## 春は…

宮崎 まさ美

秋篠川の浅瀬に鯉が群がり、水音を立てています。道端にはタンポポが真っ白い球形の綿毛をあちこちに突き出しています。鯉はより良い子孫を残すために大騒動。タンポポはより遠くへ種を飛ばすための大作戦。タンポポの綿毛がこんなに目立つのはなぜか。シニア自然大学校の講座を受けて納得。自然の仕組みってすごい。おもしろい。

シニア自然大学校を「卒業」という言葉で追い出され、身の置き所を求めてならやまにやってきました。モットーの「無理をせず」にひかれて。

ゆったりと草花や木が眺められたら。小鳥のさえずりが聞けたら。そして、それらについて教えていただけたら。植物や鳥（ヘビやムシではない）を身近に感じながら過ごせたら、幸せです。

春。私の第一歩。よろしくお申し上げ致します。

## 仲間入りしました②

### 奈良・人と自然の会に入会して 足立 勝洋

この度は、この楽しい会に入会させて頂き有難うございました。入会の動機・抱負は、ただひとえに森や里山の活動に係わってみたいという思いからです。また、その大元は、日本の重要な資源である森林がどうやろうまく機能してないらしいと知るにつけ、もっと実態を知ってみたいと思ったのでした。その流れでシニア自然大学校を一年(星組18期)修了し、この会に入れて頂きました。またこの4月から半年間は大阪の森林大学の受講が並行しています、楽しみです。

森・里山以外の趣味としては、国内外の旅行です。例えば、日本という国のアイデンティティーを探るという自分なりの大げさなテーマを一応掲げて、出雲や中国の大連に旅行したりするのも楽しいです。

仕事と言うほどのボリュームは無いのですが、現在はファイナンシャルプランナーですと自己紹介しております。

皆さま、今後ともどうか宜しくお願い申し上げます。

### 里山活動が楽しくなれば 伊良子 和夫

私は京都の山科に住んでいます。シニア自然大学校の風組を修了しました。それまでは自然にほとんど興味がなかったのですが、1年間自然について学ぶうち、その面白さが少し解りかけてきたところ です。

入会の動機としては、教育実習で去年一度会の活動を見せてもらったのですが、参加者の多さや、里山の広さに驚きました。又、お昼に貰った小芋の焼いたのが大変美味しかったこと、皆さんが楽しそうに活動されていたことが印象に残り、入会しました。

今まで里山活動など全く経験がありませんが、先輩のみなさんからご指導をいただいて、早く活動できればと思っています。でも、「無理せず」に、一步一步「楽しく」活動していきたいと思っています。又、活動に慣れてくれば、サークルにも入りたいと思っています。

### 奈良・人と自然の会の皆様 高城 光一

はじめまして 高城光一と申します。

私は本年3月シニア自然大学校を終了しました。その後の進路として貴会での活動を選ばせて頂きました。入会の動機は環境問題について関心があるならとにかく実践したい、やるなら地元でいい人たちと共にやってゆきたいと考えたからです。

私は70歳の今も繊維関係の個人事業を営んでおります。そのため貴会での活動が不十分になるかもしれずご容赦の程お願い致します。余暇はスポーツクラブ、音楽関係(クラシック音楽鑑賞と合唱活動)および読書が中心で偶に囲碁を打ったり、経営に関する勉強会に参加しています。若い頃は登山、スキーもやっていましたので、これからは自然観察を加えた登山を楽しみたいと思っています。

(膝を痛めておりますので軽登山しかできません)

自然研究を貴会で深めたいと思っていますが、現時点では発酵に興味を抱いております。

### 皆さん 初めまして 長谷川 巧

皆さん、初めまして。私は定年後、森林関係の研修を受けたりボランティアクラブに入ったりして過ごしてきました。いこま里山クラブに籍を置いております。昨年度は生駒市で森林・里山の市民講座を開きました。その内の2回は前会長の阿部さんに講師として来ていただきました。阿部さんが下見に来られた時、私は世話役として関わっていましたので、阿部さんと初めて会話を交わしました。「ナラ枯れ」の話題で話が盛り上がりました。「奈良・人と自然の会」でも「ナラ枯れ」が問題になっているとのことでしたので私も参加したく思いました。4年前の県主催の研修で一緒に森さん、安川さん、寺田さん、小嶺さんと再会できることも楽しみの一つでした。

こんな訳で入会しましたが、まだまだ未熟者です。これからどんなことができるのか自分自身に期待をかけて励みたいと思っています。よろしく申し上げます。



## 仲間入りしました③

### 宜しく願います 辻本 正則

普段から長靴を履かず、鋏も持ったことがないような者ですが宜しく願います。

人と自然の会につきましては、以前から会員の方より、里山の四季折々の風景や愉しく活動されている情景等を、機会あるごとに、お聞かせ頂いておりました。そこで、常々会に魅力を感じていましたが、何故か今いち積極的に参加しようという気にはなれませんでした。

昨年未所用で我が家に来られた折、現地での農作業の仕方や諸々の活動の楽しさを、家内(正子)共々、直接聞かせて頂く機会がありました。すると、自宅で猫の額程の家庭菜園を作って楽しんでいる正子は、俄然会の魅力に取りつかれ即座に参加することに決めたようです。そこで小生も背中を押される形で参加することにしました。

歓迎会当日は、正子が近江八幡に宿を取っておいてくれたので、歓迎会には参加できませんでしたが、その間近江商人の郷を散策し、資料館や商人屋敷をゆっくり訪ねることが出来ました。

近江商人といえば、その商法を支えた理念として直ぐ“三才よし”が思いうかびます。今回訪ねた豊郷では、なお新たに“三惚れ主義”を提唱されています。これは①仕事に②地域に③嫁に惚れよということだそうです。このモットー、今の小生にとってはグッドタイミングか!?

これから仕事はもとより、正子の心意気に惚れ、地域の里山に惚れて会の活動に、愉しんで励めということですね!!

尚、日頃レッツ・エンジョイ石造物、をモットーに旅と石仏等の写真撮影を楽しんでいます。皆様ご指導の程宜しく願います。

### よろしく願致します 辻本 正子

清々しい植物の芽吹く季節に恵まれ、里山を色々案内教へ頂き楽しく過ごさせて頂き、早、5~6回の参加となりました。

現在、仕事、ボランティアと又、夏に向かい小さな小さな庭にて大好きなミニトマト、ゴーヤ作りと日々忙しく生活を整へつつ、身体も鍛えつつ、先輩方に色々教へて頂き、楽しく無理せず参加したく、よろしく願致します。

### 宜しく願致します 上西 千代子

入会の動機は、鈴木さんや、一年先輩の池田さんから「楽しいところよ」と誘われて何度か参加させて頂き、初めから親切に頂きました。でも、皆さんそれぞれに知識や技術をお持ちの方が多く、私のように何も無い者が、と思いましたが「明るく、楽しく、元気に、無理をせず」のモットーに救われたような気持ちで、力だけが取り得かな?の私でもお役にたてたらと思ひ入会させて頂きました。

70の手習い、これから色々勉強させていただきます。

宜しく願致します。

### 里山整備と景観の保全活動に魅せられて

西 慎二郎

親しい友人が数人、奈良市内に居ますので、この地は大変親しい場所です。実習の帰り「チット一杯」が、この会との出会いの動機でした。

最初の実習で「毎月、通ってみれば? 里山の自然や整備の状況の観察が面白いヨ!」と誘われ、季節の変わり目毎に参加できました。

特に、第5地区のスタートに出会い、里山の景観が美しく整備され変化してゆく様子や、明るく・楽しく・計画的かつ要領よく活動されている事に感動しました。

また、例会やクラブ活動(歴文)にも、興味をもち入会させて頂きました。

今後は、ここで学んだ技を生かして「信州戸隠」の里山整備に役立てるよう、頑張りますので何卒宜しく願います。

最後に、万博ネイチャーラリーでの材料調達では、大変お世話になりました。お蔭様で我がコーナーは大変好評でした。

改めてお礼申し上げます。有難うございました。



## Monthly Repo. ならやま

### ◆3月28日(木) 小雨 54名

朝から降ったり止んだりの天気、午後は活動中止となった。ベースキャンプ横の桜は五分咲き。

春の風物、初竹の子を期待して竹の子隊が張り切って出発したが残念ながら獲物は1株のみであった。



佐保自然の森では、サンシュユ、ミツバツツジ、コブシ、ユキヤナギが花盛り。

しいたけの菌打ちを終えることができた。

佐保自然の森のフラワーロードへの花苗、球根の植え付けが完了した。

### ◆4月4日(木) 晴れ 55名+4名

朝一番に4月の人事移動で新しく着任された県の風致景観課長他3名が挨拶に見え、現場の状況を視察された。

活動範囲が広がり、参加者も増えたので、メンバーの活動場所が分かるように掲示板が新たに設置された。

里山グループは、カシナガの被害木の伐採、薪と薪小屋作り。農園グループは



春野菜の栽培に向けて畑の準備が着々と進められた。景観グループは第5地区から粉碎された笹をベースキャンプへ運び込み、土壌改良資材としての利用を図った。

ならやま池でカルガモの番が泳いでいるのが見られた。

パトロール隊の報告では里山林内でミツバツツジ、シハイスミレが満開。

竹の子はぼつぼつ採れ始め、お昼には焼き竹の子を味わうことができた。



### ◆4月11日(木) うす曇りで少し寒い58名

里山グループは先週に引き続き、カシナガ被害木の伐採、薪割り及び薪小屋づくり。

農園グループはさといも畑の準備、ナバナホウレンソウ畑の後始末、肌のきれいなダイコンを目指して線虫退治にマリーゴールドの播種。



景観グループでは草刈り機の安全点検・指導の後、ベースキャンプ周辺地区の除草。ならやま池ではアオミドロとの格闘が毎週続けられている。ウマノスズクサの支柱となるジャングルジムが仕上がった。

### ◆4月18日(木) 晴れ、59名+8名

里山グループは薪割り、カシナガ伐採木の処理。農園グループはじゃがいも手入れ、シソの種まき。

景観グループは新人への草刈り機の取り扱い説明と安全講習および実習。池では生物調査、バラタナゴは繁殖期にはいった模様。佐保自然の森のフラワーロードへの球根の追加植え付け。竹の子はピーク?かも。東池横の通路整備が完了。(文責:木村 裕)



\* ペタキン日記 ⑫ \*  
羽尻 嵩

**\*ならやま花だより\***  
山中 笙子

4月18日(木) 春の陽気にスマレの仲間やムラサキケマン、ヘビイチゴが群生、花一杯の里山です。

一方、日蔭を好むアオキ(ミズキ科)が紫褐色の星形の小さな雄花を咲かせています。日本原産の雌雄異株植物、名前の由来は茎も葉も青いから。日本では地味な庭木ですが、江戸時代中期、光沢ある青い葉と赤い実をつけるアオキに惹かれた英国人が、母国に持ち帰るも雌株だけだったので結実せず。一世紀後、雄株が持ち込まれ幻だった実が結実する。今でも欧州では観葉植物として人気があるそうです。

花言葉は「若く美しい」、アオキにあやかりたいですね。

▼雌花



▲雄花

**【草花】** カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、キュウリグサ、シハイスミレ、アリアケスミレ、ツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、スマレ、レンゲソウ、ムラサキサギゴケ、スズメノヤリ、ムラサキケマン、ヘビイチゴ、オヘビイチゴ、カキドオシ、ヤエムグラ、ノゲシ、ノボロギク、シャガ、ヒメウズ、ツクシ、オニタビラコ、ノミノフスマ、ウシハコベ、カンサイタンポポ

**【木の花】** アケビ、ミツバアケビ、レンギョウ、タチヤナギ、ウスノキ、ヤマザクラ、ユキヤナギ、ザイフリボク、クヌギ、コバノミツバツジ、アオキ、ウワミズザクラ、クサイチゴ、ダイオウグミ、侘助、コチョウ侘助、イロハモミジ、リキュウバイ、コバノガマズミ、クワ

**【花壇】** ショカツサイ、ハナニラ、キンセンカ、十二単、チューリップ、サクラマンテマ、アイリス、ジャーマンアイリス、パンジー

**<ビオトープ池考> 第1回**

「ビオトープ」は、ドイツで生まれた造語の“*Biotop*”からきた言葉で、鳥類や動物も含めた“生物群集の特定の生息空間”を意味し、開発が進み、生物生息空間が点在するようになって広く使われ始めました。例えば雑木林・ヨシ原・ススキ野原・河原・ワンド・溜池・湿原・干潟・砂浜など、多くの生き物がいるところがビオトープなのです。

ドイツでのビオトープ保全活動は、自然保護法に基づき、多様な形で官民一体となって進められてきました。

しかし、日本では、1990年代ごろから特に「溜池の生物生息空間」だけを「ビオトープ」と呼び、「トンボのビオトープ」、「メダカのビオトープ」、「蛍のビオトープ」などと銘打って、各地で溜池づくりが行われてきました。

日本のそのような動きは、急速に失われていく「水辺空間」への都会人の郷愁が込められていたように思いますが、本来、溜池は「灌漑用水確保」、「雨水流出の抑制」の他に、「多様な生物の生息空間保全」さらには「景観美や憩いの空間演出」などの機能も持ちます。したがって、農作業と関係がなくなった都会人も、溜池によって多様な恵みを受けることができるため、自然保護・再生活動においても重要視されなければならなりません。

しかし、さまざまなビオトープが求められる中で、特定の水生生物保全のために造られた溜池だけを「ビオトープ」と呼ぶのは、「生物の生息空間」をあまりにも限定的捉えていて違和感をおぼえます。どうしても、溜池に関して「ビオトープ」という言葉を使うのであれば、「ビオトープ池」とか「溜池ビオトープ」などというべきだと思います。(続く)



☆ジャコウアゲハ誕生☆

菊川 年明

昨年9月の終わり頃に、ならやまのウマノスズクサについていた終齢近くのジャコウアゲハの幼虫の一部を私宅に持ち帰り、飼育容器の中で餌やりを続けたところ、1週間ほどの後には逐次蛹になった。

今年4月の始め頃には蛹はチョウの姿が透けて見えるようになり、羽化の近いことが感じられたので、故郷のならやまに容器ごと移し、様子を見ていたところ、4月17日に第1号のチョウ（ジャコウアゲハ）が現れた。

幼虫の一部を私宅に移したのは次のような事情があったからである。昨年9月初旬、ならやまのウマノスズクサにたくさんのジャコウアゲハの幼虫が発生（孵化）した。ウマノスズクサもよく繁茂していたので餌不足はないものと思いきや安心していた。幼虫は餌をもりもり食べてどんどん大きくなり、9月の下旬には終齢近くになった。

ところが9月終わり近くのある日、繁茂していたウマノスズクサがばっさり根元の方で断ち切れ、一日にして枯れてしまった。そのときは事情を知らない人が茎を刈ったのだと思っていたのであるが、ほどなく啞然とする真相がわかった。成長の速かった幼虫が後に続く幼虫の成長を阻むための行動だということが文献に書かれていた。芥川龍之介の「蜘蛛の糸」に出てくるカンダダが思い浮かぶ。

そのようなことで、餌にありつけなくなった幼虫を保護するために持ち帰ったもので、私宅近くにはウマノスズクサが自生していて、餌の採取に困らないという事情もあった。



▲ 羽化直後のジャコウアゲハ♂

ならやま自然の森・観察路

山本 隆造

パトロール隊では、ならやまの森を巡る自然観察路を4コース設けています。それぞれのコースをシリーズで順次紹介します。今回は3コース（松山コース）の紹介です。

サイクリングロードをザイフリボクとウワミズザクラの開花を見ながら東に進み、彩の森の先から自然の森に入り尾根道を登ります。コナラをはじめ落葉樹の一斉の芽吹きで、森は萌黄色に染まり、まさに「山笑う」の様相です。小羊歯の辻(113P)から左折し尾根道を歩きます。アセビ、アオキ、ヤマザクラ、コバノミツバツツジ、コバノガマズミなどが3月中旬から順次花を咲かせます。

東に下りサイクリングロードに出て第5地区を通り抜け、北西に登ると松山平です。赤松の芽生えと若木、コバノミツバツツジがたくさん見られます。赤松が荒地でパイオニア植物としての逞しい一面を見せています。コバノミツバツツジは4月初旬に鮮やかな紅紫色の花が楽しめます。松山平のすぐ上が、ならやま最高峰です。(地図上で標高119.8mです) 観察路はピークの下を巻きますが、ピークに立ち寄ってみました。

▼ピークからの眺望



▲ 松山平の赤松とコバノミツバツツジ

東側に展望が開け、ドリームランドの廃墟跡、その向こうに若草山、奥には春日山原生林…と絶景がありました。観察路随一の展望所になりそうです。

ピークから一旦谷に下り、登り返して先ほどの尾根道に戻り、小羊歯の辻から赤岳、鳥観の丘に向かいます。鳥観の丘を過ぎると赤松の立ち枯れが目立ち、処置が急がれます。学びの森経路でベースキャンプに戻ります。

現在、急な箇所を整備、道標案内板とポイント票の設置作業等を少しずつ進めています。

**神話の故郷 早春の山の辺の道を訪ねる**

**3月例会 (歴史文化クラブ担当)**

(3月26(火) 晴 参加者 32名)

(行程) JR三輪駅⇒大神神社若宮社⇒大美和の杜⇒狭井神社⇒玄賓庵⇒檜原神社⇒万葉歌碑の丘(昼食)⇒景行天皇陵⇒崇神天皇陵・櫛山古墳⇒中山大塚古墳⇒西殿塚古墳⇒西山塚古墳⇒大和神社⇒JR長柄駅

穏やかな天気にもぐまれ、三輪山をめぐる早春の山の辺の道を歩きました。案内は、杉本登、古川祐司、坂東久平の世話人が担当しました。記紀にも登場する神話や伝承を紐解きながら、万葉歌碑に古人の想いをしのび、ヤマト王権の成立を物語る最古の前方後円墳の解説に耳を傾け、文字通り歴史とロマン一杯の例会となりました。

大神神社若宮社は、三輪山の大神主神の子、太田田根古を祀っていますが、元は大神神社の神宮寺でした。明治の廃仏毀釈の際、神社の本殿と主張して廃棄を免れ、本尊の十一面観音は聖林寺へ移し国宝として現存します。時代の嵐に翻弄された寺社の歴史の証人と言えるでしょう。



大美和の杜・展望台にて

大美和の杜からは、奈良盆地が一望できる抜群の展望が開ける。金剛・葛城・二上山、青垣山に囲まれた国中(くんなか)に浮かぶ大和三山の姿は、まさに「やまとは国のまほろば」の言葉通り。神武天皇と五十鈴姫のロマンスの地の狭井川と狭井神社を訪ねて、次は、三つ鳥

居で有名な檜原神社へ。ここは元伊勢ともいわれませんが、二上山への眺めは最高。昼食は、万葉歌碑の丘で三輪山に見守られていただきました。ここで、初期古墳についての講義がありました。



万葉歌碑の丘で昼食

午後は古墳と万葉歌碑をめぐる路になります。景行天皇陵、崇神天皇陵などの柳本古墳群に入ると道沿いに柿本人麻呂などの歌碑が並び、満開の梅や咲き初めた桜が目を楽しませます。最終行程の大和古墳群には、手白香皇女の陵とされる西殿塚古墳のほか、中山大塚古墳、西山塚古墳があり、古墳談義は佳境に入ります。



西殿塚古墳(衾田陵)

終点は大和(おおやまと)神社。氏子代表を務めた山中さんの説明では、大神神社、石上神社と並んで日本最古の神社です。四月一日のチャンチャン祭りにはぜひお越しくださいとの一言があり、これで例会は無事終了。心地よい疲労と、古代ロマンの余韻に浸りながら帰途につきました。

(文責 坂東久平)

## 桜の郡山城と金魚田を訪ねる

4月例会（歴史クラブと共催）

日時：4月9日（火）10：00～15：00

ルート：永慶寺—郡山城—大納言塚—  
金魚資料館

参加者：26名

幹事：川井、井戸、寺田

4月9日（火）本年度初の例会である。天気は、うららかな絶好のお花見日和。



まずは黄檗宗・開基柳澤吉保公と旧郡山藩主柳澤家歴代の菩提寺である「永慶寺」で住職から、「お寺のいわ

れ」など小1時間お話を伺う。

隣接する「郡山城」は、桜の咲き具合を心配したが、白い桜が満開である。「柳澤神社」や「天守台の石垣」などを見学後「追手向櫓」の近くの広場で昼食。1時間の城内自由散策の後、川井さんから歴代城主にまつわる歴史秘話の興味深いお話をお聞きした。

午後は、城跡を出て、まず郡山100万石城主「豊臣秀長」の墓所である「大納言塚」を訪ねた。正面に立派な「五輪塔」があり、川井さんから五輪塔のいわれの説明があった。

この後本日のもう一つの目玉、金魚探索ルートである「金魚資料館」と金魚飼育のいけすを訪ねた。郡山の金魚は柳澤吉保の子“吉里”が、甲斐から国替わりの折にもたらした。現在、約60戸の養殖業者がおり、年間7000万匹（国内40%のシェア。金魚すくいの金魚は6000万匹）を養殖していることなど、金魚のことが良くわかり大変興味深かった。

15時に、近鉄郡山駅へ戻り解散。桜の郡山城と金魚養殖で、大和郡山を堪能した陽春の一日であった。  
(寺田 孝 記)

## アースデー2013 in なら

4月21日にならコープ主催の標記イベントが「国営飛鳥歴史公園 石舞台芝生広場」で行われ、私たちも協力依頼を受け、11名で『体験コーナー』に参加しました。

出し物は「竹笛」（村上さん担当）と「ブンブンゴマ」（安川さん担当）の自然工作。

心配した前夜からの雨も上がり、10時開始。

しばらくは子供の姿もまばら。呼び込みも行っていくうちに、ようやくお客さんが訪問するようになり、工作机が子供であふれて来ました。



寒さのために子供たちの手もかじかんでいるうえに接着剤の効き目も遅かったのですが、結構我慢して竹笛を作っていました。

ブンブンゴマを作るのは簡単ですが、いざ廻すととなると大変。親も一緒になってチャレンジ。何とか廻るようになってようやく「やった！」というどや顔。こちらもホッとします。工作後のフォローは本当に大事ですね。

今回は子供だけではなく若いカップルや年配者達もかなり参加してくれたことや、他の多くの物品販売ブースに対抗して『無料工作ですよ！』というビラを吊るしたりなどと、少し面白い展示でした。



主催者側によると、曇天の上に寒い風がかなり強く吹き付けたせいかこのイベントへの参加者は約800

名と予想より少し少なかったという事でした。それでも、午後3時の終了時間までに、「竹笛」も「ブンブンゴマ」も約100個ずつなくなり、スタッフにとっては適度な作業ペースでした。  
(森 英雄 記)

## 自然教室チームだより

## 奈良市鴻池運動公園内「万葉の苑

### 自然観察会の実施報告

4月8日(月)心地良い春の日差しの中を、参加者10名が小田さんの案内で観察会を楽しみました。

常緑のクスノキは、春が葉の入れ替え時なので、落ち葉がいっぱいです。クスノキの落ち葉は、色や模様が鮮やかでとても美しく、眺めているだけで楽しくなります。アラカシの薄いピンクの新芽は、まるでうなだれているような姿が可愛く、去年の葉っぱを残したまま、新芽を出し始めているカシワの木、小さな可愛い葉をつけはじめたエノキやケヤキ、早春の木々は勢い良く活動を始めていました。イロハカエデは真っ赤な花をたくさんつけています。夏の実や、秋の紅葉を愛でることはあっても、新芽の様子や花をみることは少ない事に気づきました。

青木さんの、対象を小学生に想定した「クスノキ」のインタープリテーションは、クスノキが虫の嫌がる匂いを持っていること、アオスジアゲハの食草であること、昔は樟脳を作っていたこと、強い木で仏像の材料に使われたことなどを内容とした話のあとに、鹿児島島の蒲生の日本一大きなクスノキの説明があり、およそ24メートルの幹周りの大きさと、

その幹の中にできた祠の広さを体験するためにロープを広げると、皆その大きさに驚き、1500年の命をつないできた大クスノキの偉大さに畏敬の念を感じたひとときでした。



ネイチャーゲームは、箱のなかの物の感触と似たものを自然の中から探す「感触の宝箱」と自分の好きな木と同じ木を好きな相手を見つける「木の合う仲間」、見つけ物をしながら歩く「ディスカバーウォーク」の3つ。それぞれ、5感を使って自然を感じたり観察をして、楽しむことができました。

自然教室チームでは毎月自然観察会を予定しています。誰でも参加できますので、奮ってご参加ください。

6月は6月11日に平城宮跡の観察会です。  
10時に西大寺駅南口にお越しください。

(平岡久美 記)

## 自然遊びを楽しみましょう!! ①

私たちの身の回りには自然の笛の材料がいっぱいあります。タンポポの花茎の笛、ヤマモモやツバキの葉笛、ツバキやサザンカの花びらの笛などはもうご存知だと思います。

今回はホトケノザの花笛を吹いてみましょう。3月末ごろから5月初めころまで野原や道端によく咲いている花です。やり方はごく簡単です。



- ① ホトケノザのできるだけ大きい花を取る。
- ② 細い管の方を口にくわえ、両方の唇で軽く押える。
- ③ 口を膨らませて、細い管の中に息を通す。
- ④ ピーと小さめの音が鳴る。

実際にはすぐには鳴らないかもしれませんが、花を変えたりして何回か吹いているうちに音が出るようになります。鳴ったら楽しいですよ。ぜひやってみましょう。

(倉田 記)

# やさしい昆虫講座(31) 我が世の春、到来! 木村 裕

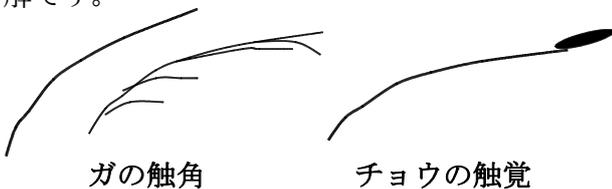
モンシロチョウが、アゲハチョウが、甘い恋をささやく季節となりました。男性陣は毎日おめかしをして女性たちの気を引くことに一生懸命です。

チョウ（蝶）は色鮮やかで美しく、ガ（蛾）は地味で褐色の衣装をまとっているイメージがありますが、これは本当でしょうか？ また、昼間に飛び回るのはチョウ、夜に現れるのはガと言う説もありますが、本当？ どちらも70%程度はあたっていると思いますが、例外がいっぱいあります。きらびやかでどう見てもチョウのように見えるガ、くすんだ衣装をまとった野暮ったいチョウもいます。



チョウの仲間 (イチモンジセセリ)

チョウとガの見分け方は、ひげ（触角）を見てください。糸状、櫛歯状ならガ、ひげの先に丸いものがあればチョウと判断すれば99.9%正解です。



ガの触角

チョウの触角

ガはほとんどが夜行性ですが、昼間にチョウのように飛び回るものもいます。その代表がマイマイガ（幼虫名はブランコケムシとも呼ばれ、サクラの毛虫）で、6月頃にとっておきの上等の衣装（私たちの目には地味な褐色）をまとったオスが林の間をいっぱい飛び回っています。

それでは幼虫での見分け方は？ 毛虫はガ、アオムシのように表面がなめらかなのはチョウでよろしいでしょうか？



チョウの幼虫 (ツマグロヒョウモン)

これはまったく当たっていません。両者の見分け方は非常に難しく、基準となるものはありません。私たち虫や直感で見分けられますが、一般の方には至難の業です。日常私たちの目に触れる毛虫やアオムシ、イモムシの仲間は99%がガの幼虫とみて差し支えないでしょう。私たちに馴染みのあるチョウの幼虫はアゲハチョウ、キアゲハ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、ルリタテハくらいでしょう。

話は脱線しますが、昆虫の足は6本であることはお孫さんでも知っていることでしょう。じゃ毛虫やイモムシの足は本当に6本ですか？ 胴体にうじゃうじゃと足がいっぱいあったような気がしますが。ムカデほど多くはないが胴体には5対（10本）程度はあったと思います。日ごろ皆さんが見ている足はすべて偽の足で、胴体をささえるためにあり、本当の足は別のところにあります。頭のすぐ後ろ、胸の部分にあり、胴体の足とは形はまったく異なっており、小さくて目立ちません。写真をよくみてください。この小さな3対の足が成虫のチョウやガになっても残ります。



おさむしのおもむろ徐おもむろに行く花ぐもり 西谷範子

「歩行虫」と言うマイマイカブリの事でしょうか。  
花見時には人様の歩く様も虫の歩みに似る。  
虫に見立てた花見の一角が見えてくる。

つばくろの先導うれし二輪ゆく 西谷範子

西谷さんはいつもバイクでやって来る。  
燕に誘導されてスピード違反にご注意。ご注意。

つよこち強東風や大納言死す五輪塔 八木順一

四月例会。郡山城下の一角に秀長の塚。  
鎮魂の墓標、五輪塔が春風のなか凜として建つ。

筍よ今日は基金の一番手 古川祐司

今年もたけのこの旬。自然之贈り物を享受する。  
なら山の活動資金の一助として山の神に感謝。

## 自然俳句

監修 川井秀夫

ふすまじ衾道の寒紅梅に妹を見む 川崎和江

三月例会。山の辺大和古墳群を行く。  
衾田陵は継体天皇の后が眠る。早春の花が匂う。  
古代の女人の姿にも似て、ロマンに想いを馳せた佳句。

むささびの腰当てが欲しやまいだれ

三月例会。小生腰痛で無念の欠席。  
五体を横に小座布団を腰に、夢の中の花見となる。

川井秀夫

聞いて見よ逆さ地蔵の見るさくら 川井秀夫

四月例会。郡山城は落花の風情。これもまた佳し。  
城石に埋まる、逆さ地蔵の見る花の風情はどんな気分かね。

朝掘りの春はるたけのこ 笋の誇らしげ 川井秀夫

たけのこ部隊、朝一番の収穫。  
どうだとタケノコくんの姿。掘り手も胸を張る。



癒しの  
散歩道

見え隠れし春の影絵を踏みて

谷川 萬太郎



時を越えた桜色の貴女に逢いたくて  
溢れる喜びをあざ笑う憎き春の嵐に  
故郷の澄んだ川面に何故かなみだ船  
葉桜もはかなし哀れみの袖振りて悲しや

季節はずれの吹き荒れた寒風に堪えながら  
焦がれ萌える季節は春の幻に弄ばれ  
仰ぎ見る空から桜花ひらひら散り染める  
暖かな陽ざし降る春は何処の彼方

暦をめくり訪れる季節の花ひかえめに  
命短し乙女達の春の宴春のしづくよ  
目映い春はそこに口笛吹けば懐かし  
近くて遠き春の海よ季節の母は優しく

小寒い風が騒めき我が物顔で私を横切る  
水面に漂う未練の詩を詠み心は時に流され  
春色の山里にさえずる小鳥が飛び交い唄う  
いつしか山の景色も艶やかな緑に変わるだろ

ならやま  
茶 論

「団結」

竹本 雅昭

ネット : えんどうさん、大分大きくなったね。

えんどう : お陰さんで。

ネット : グルリと囲んで鳥をやっつけて  
やるからな、大船に乗った気で  
いな。

えんどう : とても助かりますわ、たくさん  
実をつけて人々に喜んでもらいま  
すわ。

竹 杭 : おいおいネットさんよ、自分一人  
だけが活躍してるみたいに言うけ  
ど、他に大事な人を忘れてやいま  
せんか。

ネット : そうそう竹杭さんがいないと我々  
は何の役にも立たんからな。宜し  
く願います。

大 地 : おう！黙って聞いてりゃ二人だけ  
の手柄のように言っとるが、一体  
誰のお蔭で立ってられるんだい、  
えっ！！

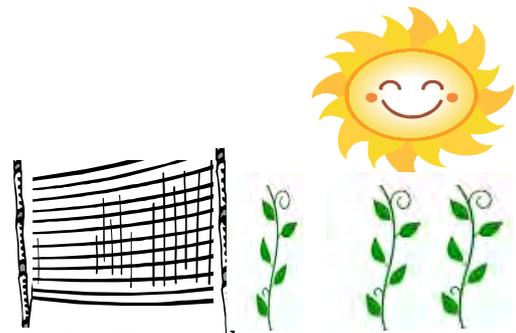
ネット& : いやー全く、あなたがいないと何  
竹杭 も出来ませんです。すみません…。

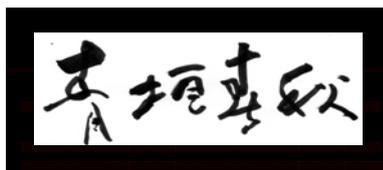
大 地 : おゝ、分ってもらえばいいってこ  
とよ。

太 陽 : 皆さん、我が私がじゃなく各々の  
お役目に精出して下さい。私に  
してもこの宇宙がなけりゃ生きて  
ゆけないんですから。

一 同 : はい。お恥ずかしい…。

太 陽 : 私も寿命が尽きる迄懸命に光を  
届けさせてもらいますよ。





# 三輪さんと大物主神

歴史文化クラブ

古川 祐司

「古代人にとって山こそ神であった。それも小山である。神体山の多くは野面ににわかに盛り上がり、裾を美しくひらくという端正な姿を取っている場合が多く、その代表が三輪山と云っている。」

三輪山を神体山とする信仰は大和政権以前から存在した。8世紀に編まれた「古事記」の崇神天皇のくだりに、三輪山伝説が出てくる。それによると山にこもる神の名は大物主神（大国主命）であるという。この神が、天つ神系に対する国つ神集団の代表であることは言うまでもない。天つ神系に国譲りして出雲にしりぞき、出雲大社の祭神になるのである。」

— 司馬遼太郎「この国のかたち」より

古事記でもっとも大きなウエイトを占める国譲りの神話は、天つ神系の勢力が、大国主命に代表される国つ神系を支配下に置く支配者交代を物語る。日本書紀では、実在した最初の天皇とされる崇神天皇紀には関連する記述がある。

崇神天皇6年の条に、国中に疫病や反乱の災いが起った。宮中で一所に祀っていた天照大神と倭大国魂神が荒れる所為だと、それぞれ別の場所に移して皇女に祀らせたが、治まらない。ここで三輪山の大神が夢に現れて言う。「国治まらざるは吾が意ぞ。吾が兄太田田根古（おおたねこ）をもって吾を祭りたまわば、たちどころに平らぎなむ」。天皇は、茅渟縣の陶邑（泉北郡東陶器邑大字太田）に住む太田田根古を召して三輪の祭祀にあたらせると国は治まったという。大物主神は、「芦原中つ国」の支配者であった大国主命の和魂（にぎたま）と言われる。これは新しい支配者が旧来の三輪の神を奉じて祭祀権を継承したことを物語っているのだろう。

ところで、大物主神とは何者であろうか。崇神天皇8年の条に、「高橋邑（天理市櫛本町）の活日（いくひ）を大神の酒掌（神酒の管掌）とす」。その活日が大神（おおみわのかみ）に酒を捧げて歌う。「この神酒は 我が神酒ならず 倭なす大物主の釀（か）みし神酒 幾久 幾久」

「倭なす大物主神」とは、倭の国を造った神の意味という。（和田萃氏「三輪の古代史」）

ヤマトの三輪政権を「イリ王権」ということがある。崇神天皇の和風諡号（おくりな）は、御間城入彦五十瓊殖（みまきいりびこいにえ）、その皇女は「豊鋤入姫命」（とよすきいりびめ）、淳名城入姫命（ぬなきいりびめ）である。次代の垂仁天皇の諡も、活目入彦五十狭茅（いくめいりびこいさち）。両者に共通する「いりびこ」、「いりびめ」はこの王族の共通の名称である。多くの学者が、「イリ」を外から侵入して樹立した政権を意味している。

千田稔氏は、邪馬台国の都の纏向にあった王権が、三輪山の麓の倭を治めていた旧勢力に代わって入り（いり）、磯城瑞垣宮（崇神天皇）を建てたとされる。（前掲 三輪の古代史）

因みに、代々の出雲国造が就任する際に、朝廷に対し出雲国造神賀詞（いずものくにのみやつこかむよごと）を奉るしきたりがあるが、それ中で、国造りの神大穴持命（おおなむちのみこと）を始めとする186社の神々の和魂を天皇に差し出す、と述べている。

古代では、神の力が統治権の中樞をなす要素であったことを考えれば、国つ神の祭祀権をめぐる伝承は、ヤマト政権の成立に深くかかわっていると想像できる。それにしても、奈良盆地の古社には出雲系の神様が多く祀られている。三輪山を始めとして、葛城高鴨神社、鴨都波神社、雲梯町の川俣神社、また各地の杵築神社などなど。いつ、だれが、どのようにして、これらの出雲の神々をまつり始めたのか、興味深いことである。





# Gallery ならやま

「柿」 有元康人

① 蔓の工作 (椅子)  
(鈴木末一)

② 竹の工作 (鯉幟)  
(田中克彦)

③ 竹の笛

④ ペンダント (ヒマワリの種)  
(村上雄之)



① 蔓の工作 (椅子)



② 竹の工作 (鯉幟)



③ 竹の笛



④ ペンダント (ヒマワリの種)



蕎麦の茶色の由来

②

福田 美伸

年越し蕎麦を食べる習慣は食べ物のあまりなかった昔(句である蕎麦は最高の御馳走であり、また植物性高蛋白質、ビタミンB1等に富んだものである)、新年を迎えるにあたり、元気で長く生きられるようにとあやかっただけのものと思っていた。

実際には鎌倉時代で大晦日にある寺が飢饉で飢えていた人々に蕎麦がき?を振るまい、それを食べた人が翌年良い年になったと言う。以後それにあやかろうと大晦日に年越し蕎麦を食べることが広まったと言われている。俗に言う開運蕎麦のことである。

また、二八蕎麦という言葉があるが、ものの本によると二つの説がある。一つは蕎麦粉80%、つなぎ粉20%で作った蕎麦のこと。もう一つは江戸時代、当時16文で売られていたので、 $2 \times 8 = 16$ の九九算からきた説とである。16文は現在の貨幣価値に換算すれば千円以上になると言われる。

落語に出てくる「よなきそば」の「今何時だい」の気持ちが分かるような気がする。

屋台のそば一杯が千円以上では高か過ぎるように思う。当時どのような人たちが「よなきそば」を食べていたのであろうかと気になるところである。

蕎麦切りは豊臣時代に浪花の船場あたりのそば屋が始めたと言われ、新しい食べ方で今で言うファスト・フードである。大変繁盛していたが関ヶ原の合戦以降そば屋の多くは、江戸に引越したため、江戸から全国に普及した。それまでの蕎麦の食べ方としては、蕎麦がきあるいは団子状のものを食べていたと言われている。

現在では「そばが東京、うどんは大阪」と相場が決まっているが、蕎麦切りは大阪で発明されたもので、東京のそば屋の先祖の何分の一かは浪花出身と言うことになる。

蕎麦は一般にあの茶色と思われているが、実際には殻を割ると真っ白である。蕎麦の実には三層になっていて、一層目は黒い外皮である。蕎麦粉にするとき殻と一緒に製粉するから、あの茶色になるわけである。二層目は薄皮の高蛋白質部で、三層目が澱粉質の白い部分である。

極上品の蕎麦粉は有名な産地であることは勿論のこと、大粒の実で黒い殻を取り除き、その一部を粉にしたものが最高とされ、幾分青味を帯びた白色である。黒い殻が入るとぶましとなり、口あたりも悪く当然味も価格も落ちる。

蕎麦粉総量：70%  
 末粉：2%  
 蕎麦殻：27%  
 乾燥材料：1% (計100%)

御膳粉：歩留 10%

ふた付き蕎麦として、蕎麦屋で扱う最高級品

更級：歩留 10~13%

胚乳部の中間部ぐらいを採取し高級品

上物：歩留 70%

蕎麦粉総量

中物：歩留 72%

蕎麦粉総量に末粉を合わせたもの

下物：歩留 74%

中物粉に上物製造時に残った末粉2%を混合



# ならやま景観整備

## ♪ 活動予定日 ♪

5月	2 (木)	9 (木)	16 (木)	
	23 (木)	30 (木)		
6月	6 (木)	13 (木)	20 (木)	
	27 (木)			

- ◆場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林  
[ならやま会館前道路(ならやま大通り)の南側に広がる里山林地]
- ◆集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

### ◆アクセス

- ① JR 平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
- ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場  
8:23発、高の原行き(平日)
- ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場  
8:33発JR奈良駅行き(平日)
- ② ③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」  
で下車 徒歩7分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地で用意)
- 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



- ◆連絡先：木村 裕



### 5月2日

- <里山Gr>薪小屋の製作・薪作り  
枯損木・倒木の伐採・整理
- <農園Gr>茄子植え付け、  
ピーマン・唐辛子定植
- <景観Gr>B.C.、彩の道草刈り  
機械整備、調整  
ビヨウ柳、雪柳移植、  
山野草園草引き、皇帝ダリア園整備  
水質調査、ならやま池の水生生物調査

### 5月9日

- <里山Gr>薪小屋の製作・薪作り  
枯損木・倒木の伐採・整理
- <農園Gr>豌豆の手入れ、甘藷植え付け  
豌豆のカラス対策、水田耕耘
- <景観Gr>B.C.、彩の道草刈り  
アジサイ移植、酔蝶花種まき  
日陰植物草引き、池の整備



### 5月16日

- <里山Gr>ホダ木伏場作り 薪作り  
枯損木・倒木の伐採・整理
- <農園Gr>茄子の支柱、水田準備
- <景観Gr>B.C.、彩の道草刈り  
パンジー撒収、夏花種まき  
道際花壇整備  
ならやま池水生生物調査

### 5月23日

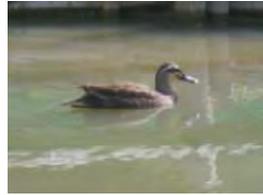
- <里山Gr>ホダ木の本伏せ 薪作り  
枯損木・倒木の伐採・整理
- <農園Gr>水田代掻き
- <景観Gr>彩の道草刈り  
ひまわり種まき、ビオトープ園  
池の整備

### 5月30日

- <里山Gr>昨年度植菌ホダ木の天地返し  
薪作り  
枯損木・倒木の伐採・整理
- <農園Gr>田植え(佐保台小5年生)
- <景観Gr>ならやま会館前広場斜面草刈り  
ハマナス種まき、草引き  
水質調査、ならやま池水生生物調査

情報BOX

ならやま池だより



カルガモ が飛来 (ガンカモ科)

4月3日、池の様子を見に来た時にならやま池で水遊びをしている二羽のカルガモを観ました。つがいでしょうか？

4日活動日、同じ光景をならやま池の奥の沼地で、観ることができました。作業開始のときは、池でスイスイ!! 喜んでいいのか、田・畑への影響は？

淡水に住み、特徴の一つに嘴の先だけが黄色。全体に淡い黒褐色。メスは、各羽の羽縁は淡色ではっきりしている。三列風切の白い部分はオスよりも小さい。全長61cm位

生態と分布：ほぼ全国に留鳥又は漂鳥として生息。日中は休息している。しかし餌付をするところが増えて一日中活動する個体が増えてきた。全国の湖・沼・水田・川などで暮らしている

巢：アシ原やマコモのある茂みなど、湿地の草原毛などに枯れ草などで皿のような巣を造り、自分の羽敷いて、10～12個くらいの卵を産む。  
 食べ物：ヒエ・ノビエなどのイネのなかま・ミズヒキモ・ミゾソバなどのタデの仲間・植物の葉根実が主。ときには、水の中の昆虫・貝なども食べる。＜野鳥が識別できる本・学研の図鑑より＞

久々のオオミズムシ(カメムシ目ミズムシ科)捕獲

オオミズムシは環境省RDBの準絶滅危惧種。体長11mm位。溜池などに見られるがきわめて局所的。まれに群生することがある。本種が好む環境については不明な点が多い。



◆◆◆歴文クラブ・5月行事◆◆◆

斑鳩の里 法隆寺周辺を歩く

～聖徳太子の事績を訪ねて～

日本仏教の聖地、斑鳩の里を巡ります。国宝・重文の仏像を拝観し、仏教振興の東西伽藍の数々を鑑賞いたします。

【日時・コース】

集合 5月24日(金) 午前9時30分  
 JR大和路線 法隆寺駅 改札口前  
 行程 法隆寺センター→法隆寺(拝観・鑑賞)→天満池(昼食)→斑鳩神社→藤ノ木古墳→竜田神社→吉田寺→法隆寺駅

解散 午後3時30分頃

準備 弁当持参・軽装・飲物・雨具など

拝観料 1,000円

【交通案内】

JR天王寺駅より(JR大和路線)

8:55分発→9:25分着 8:45分発→9:17分着

JR奈良駅より(JR大和路線)

9:18分発→9:29分着 9:07分発→9:18分着

担当幹事 富井・杉本・川井

奈良学クイズ



【問1】今井町についての記述のうち、誤っているのはどれですか。

ア. 独自の手形「今井札」を発行していた。

イ. 重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。

ウ. 称念寺を中心とした寺内町である。

エ. 飛鳥川左岸に広がっている。



【問2】奈良県で初めて発刊された新聞の名称と発刊年(西暦)についてお答えください。

【問3】『古事記』に、大和へ入ろうとしたカムヤマトイワレビコ一行が、地元の有力者である兄弟と出会い、弟の助けを得て進軍したとある。ゆかりの地名が残るその場所は、今の市町名でお答えください。

(応募要領など詳細：P19お知らせ&お願い欄でご確認ください。)



# 行事案内

## 6月例会 予告

### 5月例会 ご案内

#### 新緑の宇治市植物公園を訪ねよう!

5月例会は宇治市植物公園の観察会です。時は5月、いろいろな花が咲き誇っている植物園を職員の方々にガイドしていただき、春の自然をじっくり観察します。きっといろいろな不思議発見があるでしょう。



また、観察会終了後は希望者で宇治平等院近辺の散策もしたいと思います。担当は自然教室チームです。

- 1, 日時: 5月14日(火) 10時~15時頃
- 2, 集合場所と時間: 宇治市植物公園入口 10時  
(宇治市広野町八軒25-1)

◆入場料500円が必要

(JAFカードで2割引きの400円 1枚で6人までOK)

◆担当: 倉田、平岡

3, 観察のポイント:

- ① 咲き競う春の花々を楽しむ。
- ② いろいろな樹木に接する。
- ③ ハーブ園で様々なハーブを鑑賞する。
- ④ 温室の中の珍しい花、葉、果実を楽しむ。

4, 交通手段: 駅からのバス便は以下の通り

- ① JR宇治駅(南口)から京阪宇治交通バス(240または250系統) 近鉄大久保駅行き  
JR宇治駅9:18か9:38-植物公園 9:28、48
- ② 近鉄大久保駅(⑤乗り場)から京阪宇治交通バス(240または250系統) JR宇治駅方面行き  
近鉄大久保駅9:17か9:37-植物公園 9:29、49

\*なお駐車場も利用可能(400円)

5, 持参するもの: 食事、飲み物、観察用具、  
雨具等

6, 雨天の場合: 前日午後7時前のNHKTVで降水確率60%以上の予報の時は中止



### 大和の展望台「龍王山」へ登る

「龍王山」頂上からは、国のまほろば新緑の奈良盆地を一望でき、大パノラマです。登りはじめ、下りはじめの30分はやや急ですが、ゆっくり歩きます。過去2年連続雨で中止しましたが、3度目のチャレンジです。

1, 日時: 6月3日(月)

※ 年間計画予定の4日(火)を変更します。

2, 場所: 「龍王山」585m 歩行距離 6.5km  
実歩行時間約3時間30分

3, 集合: JR「柳本駅」午前 9:00

4, コース: 柳本駅-柳本バス停-  
天理市トレイルセンター-長岳寺山門横-  
不動明王石像-龍王山山頂-長岳寺奥の院-  
龍王山古墳群-崇神天皇陵-JR柳本駅

5, 装備: トレッキングシューズ  
(凹凸底シューズ) 雨用外衣必携

6, 担当: 塩本・寺田

### 歴史文化クラブ6月研修会

#### 謎多き継体天皇と今城塚古墳を訪ねる

(マイクロバス利用 人数限定)

古代の淀川交通の要衝、三島の丘陵地帯には、5世紀から6世紀にかけて2基の巨大古墳が築かれます。宮内庁が継体天皇陵に治定する太田茶臼山古墳と、学説が真の継体陵とする今城塚古墳です。今回は、天皇陵で唯一発掘調査された今城塚古墳と歴史資料館とその周辺の遺跡を訪ねて、継体天皇とその時代について学習します。歴史クラブ会員のご参加をお待ちしております。

《世話人》 杉本登 西慎二郎、古川祐司

◆集合: 6月25日(火) 午前8時30分  
高の原駅バスターミナル

◆行程: 車中講義(岩本先生 継体天皇とその時代) ⇒ 太田茶臼山古墳 ⇒ 新池遺跡(埴輪工房) ⇒ 今城塚古墳・今城塚古代歴史館 ⇒ 安満宮山遺跡 ⇒ 高の原駅

◆参加費: 2,200円(マイクロバス代・高速料金)

◆定員: 28名(申込順、満員になり次第締切り)

◆締切: 5月20日

◆申込先: 歴史文化クラブ

事務局 古川祐司



### 平成25年・4月度幹事会報告

◆日時：平成25年4月2日(火)  
17:15~20:30

◆場所：奈良市中部公民館

◆出席者：幹事16名 顧問2名

◆案件：

- ①会員動向、会計報告(会員は146名)
- ②例会、自然教室、ならやま等の報告
- ③第12回総会議案書(案)について
- ④第12回総会決算、予算(案)について
- ⑤4/21アースデーへの参加について
- ⑥5/3~5天平祭への参加検討
- ⑦4~6月の行事予定の確認

### ペン画によせて

#### 境 寛

#### 竹内街道

皆さんがよくご承知の通り、日本書紀の推古天皇21年(613年)の条に「難波(大阪)より京(飛鳥)に至る大道(おおじ)を置く」と記されている日本最古の「官道」です。飛鳥時代には、遣隋使の使節や留学僧が往来し、大陸から中国や朝鮮の文化をもたらしました。

江戸時代には伊勢街道の一部として存続し、飛鳥時代より現在に至るまで街道として利用されていました。

### お知らせ&お願い

- ◆ 通常総会の案内を同封しています。多数の皆様方のご参加をお待ちしております。
- ◆ 奈良学クイズ4月号の正解は、  
【問1】伝香寺・③ 【問2】牽牛子塚古墳  
でした。正解者全員に、藤蔓ミニチュア(花台)を  
進呈しました。

#### ◆ 奈良学クイズ5月号・応募要領

① メール又はFAX

② 締切日:5月2日必着



### 申し合わせ 事項

ならやま環境整備活動や  
野外行事は、前日午後7時  
前のNHK TV天気予報で  
降水確率が午前60%以上の  
場合は中止になります!!



◆ 寒暖の差が激しかった3~4月、今だ安定しない状況が続いています。体調管理には充分にご留意ください。

◆ 「ならやま」の里山一帯は、新緑まばゆいばかりになってきました。大阪からの帰路、生駒トンネルを越えると、木々の緑に心が癒やされます。ある大学の研究によれば、部屋の壁の色によって、精神状態に変化が起こるようです。緑色が最も落ち着きリラックスできるとのことです。会員の約4割強の方々が、毎週の活動日に、ならやまのフィールドへお越しいただくのも、関連性があるのではと思っています。

◆ コナラの枝に一目桜の木肌と間違えそうなものがあります。藤蔓からコナラに切り替えて、クラフトにチャレンジ中です。忙中閑あり、気分転換に役立てています。(里山人)

### 奈良・人と自然の会

会長 藤田秀憲

<http://www.naranature.com>



6月号の印刷・発送予定について

日時：平成25年5月28日(火)am9:00~



会報誌[ネイチャーなら]

編集チーム・代表 鈴木末一